

2020年度 大学職員情報化研究講習会

グループ NO.2

【選択テーマ】：③業務改革

【プロジェクト名】：社会の変化に対応した大学運営のデジタル化プロジェクト

【目的】：コロナ禍により普及が加速した業務のオンライン化をきっかけとし、今後変化し続ける周囲の環境に対応するため、大学業務に ICT の導入を促進させる

(具体的な社会の変化例)

- ・ コロナによる国内外の物理的移動の制限
- ・ 労働時間の制限（学校、保育所等の閉鎖）
- ・ IT ツールの多様化、利用者拡大、利用範囲拡大
- ・ コミュニケーションの変化
- ・ オンライン化の加速…after コロナでもオンライン化は継続すると予想される

(変化への適応)

- ・ デジタルを前提とした業務への移行

➡なぜ「変化への適応」が必要か

今研修のイントロダクションでもあったように、急激な社会の変化に伴い大学に求められる役割も変化していく中で、的確な情報収集と新たな視点での企画や改革により、社会に貢献できる大学を運営していくことが求められている

【課題】

- ① ICT へ移行させるためのコスト
- ② 教職員間の ICT リテラシーの差
- ③ 対面で仕事をする機会が減少する状況下における、情報共有・コミュニケーションの取り方について

【課題解決策】

- ① コスト(初期費用がかかる)
 - ・導入によるコストメリットの提言
長期的視点で移動費や紙の削減・業務効率化による人件費の削減等
※導入への説得材料として、分析ツールを利用した分析結果を使用する。
 - ・クラウドファンディングによって、ICT 移行のための費用を集める。
※出資者へは大学の社会人向け公開講座の提供など。
 - ・産学連携による企業からの資金調達

- ② 教職員間の IT リテラシーの格差
 - ・マニュアルを動画で作成し、公開して周知する。
 - ・チャットボットでの質問対応。
 - ・部署内で質問を取り纏め、他部署と共有することで同じ質問を防げる。(Q&A)
 - ・オンデマンド研修の実施…好きな時間に自分の必要なテーマだけ学ぶことができる。

- ③ 対面で会うことが減った中でのコミュニケーションの取り方
 - ・Teams や zoom などのツールを活用
部署でチーム作成し、チャンネル内のチャットでコミュニケーションを取る。
 - ・オンラインストレージなどで情報を共有する。
 - ・定例会など、コミュニケーションをとる時間を設ける。

【まとめ】

○これからはアナログとデジタルのハイブリッドな業務の時代へ